

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	道路改築事業		路河川名等	(主)飯田富山佐久間線			
事業毎の通番	4	市町村名	飯田市	箇所名(ふりがな)	知久平～南原(ちくだいら～みなばら)		
事業目的	(主)飯田富山佐久間線は飯田市下久堅の国道256号交点を起点とし、泰阜村、阿南町を経由して天龍村神原の愛知県境までの間、竜東の各地区を南北に結ぶ約49.6kmの広域的な骨格幹線道路であるとともに、各地域を結ぶ生活道路であり、2次緊急輸送路に指定されている。しかし、現道は幅員狭小、線形不良であるために、円滑な交通に支障をきたしている。このため、本事業により、生活道路としての快適性、安全性の確保を図り、円滑な交通の確保を図りたい。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	長野県地域防災計画(第2次緊急輸送路)、南信地域広域道路ネットワーク計画						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:2,300台/日(H42推計)						
着手年度	平成30年度	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	平成37年度	費用対効果	1.2	国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路築造工 L=900m、W=6.0(9.75)m			1,600,000	880,000	648,000 72,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 2.2億円 災害に強い道路					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進、近接道路の渋滞解消					
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 2,300台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路があるが中心市街地への道路となるため渋滞がある ○医療・福祉・教育施設との連携 : 市立病院との連携が発揮できる道路(2次アクセス) ○交通結節点アクセス : 松尾工業団地など産業拠点の活性化に資する ○観光振興・地域の活性化 : 天竜峡・天竜川下りなど観光振興や地域の活性化に資する				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : しあわせ信州創造プラン、南信地域広域道路ネットワーク計画 ○緊急輸送道路の路線指定 : 県緊急輸送路(2次)に路線指定 ○地域指定 : 東海地震に係る地震防災対策強化地域				評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.2 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : ルート検討及び他工事残土利用など検討 ○他事業との連携 : 天竜川治水築堤工事等				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 1件 ○道路環境改善 : 国道151号及び近隣道の渋滞解消 ○歩道整備 : 歩道未整備 ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員4.0～5.0m				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(H24.8月事業説明会を開催) ○地域の取り組み : 積極的な取組がある((主)飯田富山佐久間線期成同盟会) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業が見込まれる予定				評価	B
	部局意見	当路線は緊急輸送路に指定された重要な路線であるが、現道は幅員狭小、線形不良で円滑な交通に支障をきたしていることから、事業の必要性、重要性が高く事業の実施が必要である。			採択状況	総合評価	
技術管理室意見	部局の意見を適当と認める。						

位置図

状況写真

標準横断面図

平面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本事業区間の現道は、幅員狭小、線形不良であるために、円滑な交通に支障をきたしている。このため、生活幹線道路としての道路使用者の安全の確保を要望されている
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	(主)飯田富山佐久間線期成同盟会、飯田市、下伊那土木振興会から毎年要望や提言が挙げられている
③事業説明等の経緯	平成24年6月18日～7月13日役員説明会(3回)、第1回平成24年8月6日～20日、第2回10月9日～10月30日で住民説明会(5地区)を実施 平成28年12月14日役員説明会、平成29年1月26日と31日住民説明会を実施
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	南信地域広域道路ネットワーク計画に「地域の取組拠点を結び活性化を支える道路」として位置づけ天竜川上流河川事務所の松尾・下久堅地区治水事業(鷲流峡対策)等との連携(残土利用)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	本事業により近隣道路及び市街地への渋滞が緩和や、安全性の向上により、緊急輸送路としての防災強化が期待される
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、下伊那地区の活性化が期待される
⑦その他	他工事残土利用によるコスト削減の実施

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 35° 28' 35"
東経:E 137° 50' 55"